

蓄積した技術をデータ化し、ノウハウ共有が可能な組織を作りあげ、競合との差別化を実現

1947年の創業時における主力事業は自動車のエンジンおよび部品の再生、製作であった。その後、創業以来の緻密な製作技術と加工技術を活用し、エンジンの基幹部品である「クランクシャフト」の製造に特化した。多岐におよぶ加工工程をすべて社内一貫生産体制とすることで、内燃機関を用いる自動車、建設機械、産業用機械などの幅広い分野に進出している。また、世界基準の品質を誇る「油圧シリンダ」、油圧技術を応用した自社製品である「油圧式伸縮ポールシステム」等の製造も手掛けている。

所在地 岡山県岡山市北区久米6番地
 電話/FAX 086-241-2523 / 086-245-0165
 URL <http://www.yuasakk.co.jp/>
 代表者 代表取締役社長 湯浅 博文

設立 1947年
 資本金 9,200万円
 従業員数 155人



自動車業界におけるEV化の波に負けず、異分野で技術力を発揮

自動車業界におけるEV化の影響により、同社の主力製品であるクランクシャフト（自動車エンジン部品）は、需要が不透明な状況が続いている。そのような状況下で、同社はもう一つの事業の柱である油圧機器製造で培った技術により、最長18mにもおよぶ伸縮ポールを開発した。この製品は、先端部にアンテナ、カメラ、照明器具を取りつけた状態で地上からコントロールでき、放送局、官公庁、通信会社、イベント、アミューズメント等、国内外を問わずさまざまな業界の顧客に対して価値を提供している。



基地局車両に使用されている伸縮ポール

50年蓄積してきた技術のデータ化と活用で競合との差別化を図る

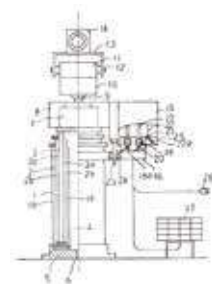
同社が50年蓄積してきた技術をデータ化し活用することで、材料特性の把握や、「推力」「応力」「振動」の正確な予測が可能となり、強い力に耐える同社のシリンダ溶接技術を可能にしている。加えて、関連会社のシステム開発ベンダーや省人化機械メーカーを活用することにより業務効率化を実現している。削減した人員コストを製造技術の向上や研究開発に振り向けることで、時代のニーズに沿った製品の開発を可能とし、競合との差別化を図っている。



同社のシリンダ製造設備

製造部門で生み出されるアイデアにより同社の特許技術は生まれる

同社では、製品の修理・保守時に発生した事象を将来の技術開発に生かす発想が徹底され、「寿命の長い製品を作り出す」というモノづくりの意識が醸成されている。現場で実際にモノを見ている人間の発想を重要視し、社内報では着想段階の事例を共有する等、技術開発促進の取組が活発である。このような組織文化により、「伸縮ポール」という同社独自の製品が生み出され、国内だけではなくアメリカやEUでも特許を取得するほどの技術に成長している。



伸縮ポールの特許範囲